

S O K E N D A I

総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻

2026

国際日本研究コース 概要

Japanese Studies Program, Graduate Institute for Advanced Studies,
SOKENDAI



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

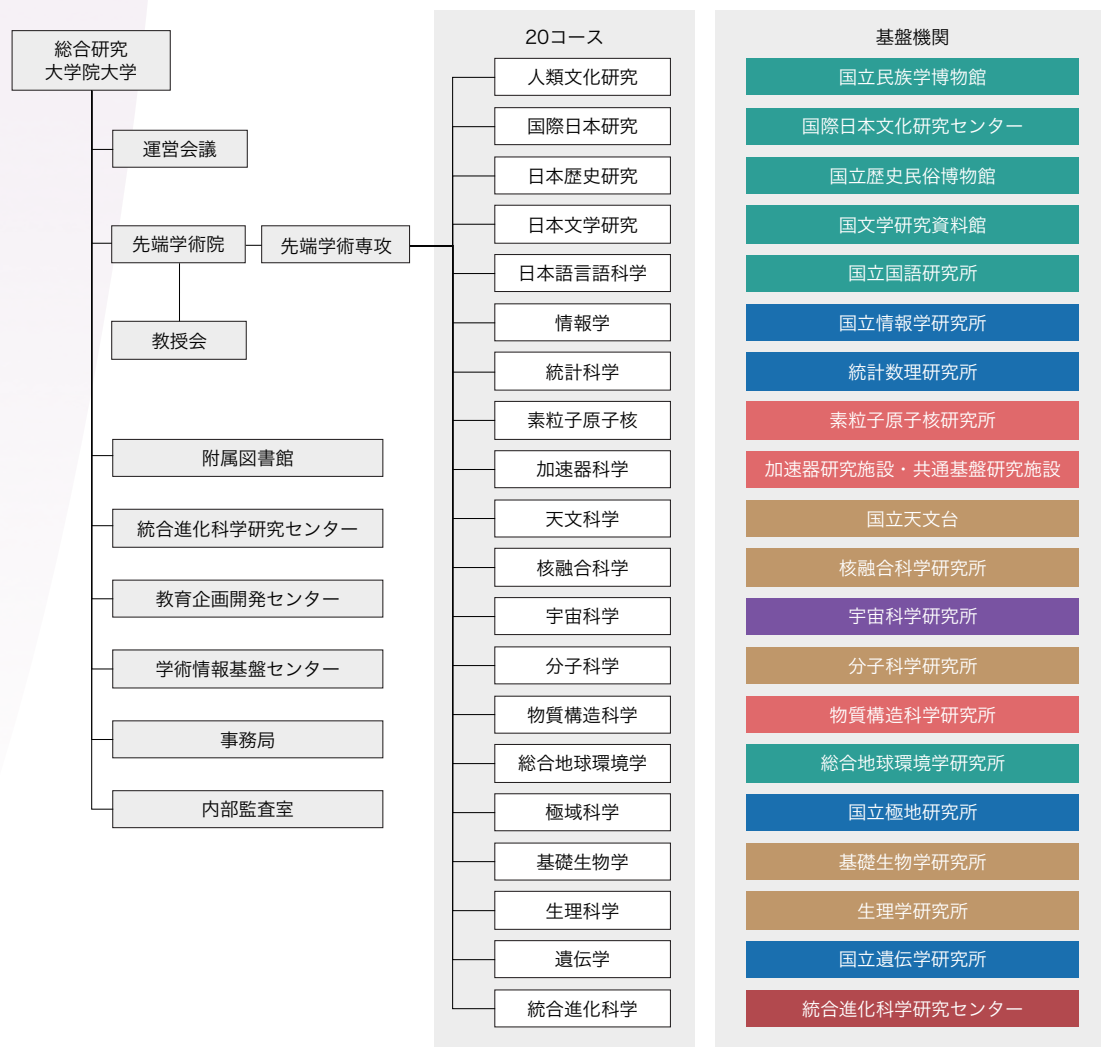
国際日本文化研究センター

National Institutes for the Humanities

INTERNATIONAL RESEARCH CENTER
FOR JAPANESE STUDIES

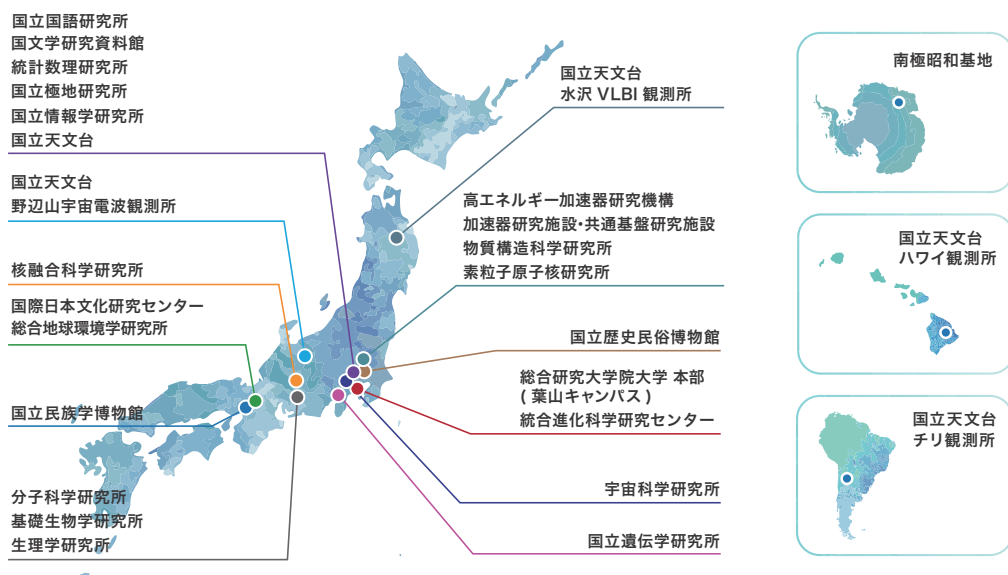
総合研究大学院大学の組織について

● 教育研究組織



- 人間文化研究機構 (Human Cultural Studies Research Institute)
- 情報・システム研究機構 (Information and Systems Research Institute)
- 自然科学研究機構 (Natural Sciences Research Institute)
- 宇宙航空研究開発機構 (Japan Aerospace Exploration Agency)
- 高エネルギー加速器研究機構 (High Energy Accelerator Research Organization)
- 総研大本部（葉山キャンパス） (Graduate School of Comprehensive Studies Main Campus (Hosoya Campus))

● 大学共同利用機関等の所在地



基盤機関 国際日本文化研究センター所長として



所長 井上 章一

総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻の国際日本研究コースは、国際日本文化研究センター（以下「日文研」）を基盤として設置されています。日文研は、国際的な視点から日本文化を学際的・総合的に研究するとともに、海外の日本研究者に対して研究上の便宜や研究協力を行うことを目的として設立された大学共同利用機関です。国内外の人文科学・社会科学、あるいはその関連分野における日本研究の一翼を担いつつ日本研究を深化させるとともに、日本文化研究に関する情報の収集・提供のための諸活動も行っています。

国際日本研究コースでは、日文研の優れた研究者と恵まれた研究環境をベースに、国際的な視点から日本文化に関する教育研究を行い、国際的・学際的な教育研究活動を通して国内外の若い研究者を育成することを目指しています。そのために、優れた外国人留学生も積極的に受け入れています。こうした使命を達成するために、教育面では単一の大講座のもとに多角的な視点から日本研究が可能となるようなカリキュラムを編成し、特徴ある柔軟な教育・研究体制を整えました。日文研が重視している他分野・他機関の研究者たちとの「共同研究」のための環境も整えています。日文研で研究を志すひとたちが、これらの優れた教育研究環境を活用し、立派な研究成果をあげて博士の学位を取得されることを期待しています。

国際日本研究コースについて



コース長 戦 暁梅

本コースは学際性の高い研究環境を提供しています。これは担当教員リストからも一目瞭然です。各教員はそれぞれ異なる切り口で日本文化の研究に取り組んでいます。各々の専門分野のエキスパートでありながら、さまざまな研究分野を横断的に扱う能力を兼ね備えている教員が集っています。本コースに入学される院生の皆さんは、指導教員のみならず、複数の教員から受ける指導のもとで、広い視野に立った研究能力を身に付けていくことができます。また、共同研究会やシンポジウム、セミナー、プロジェクトなど、基盤機関である国際日本文化研究センター（日文研）の学術研究の現場に触れていただくなかで、学際的精神を養い、日本研究の未来を担う研究者に成長していくことが期待されています。

学際性に富む一方で、日文研の活動は国際的にも展開しています。海外での学術イベントの開催運営や参画のほかに、毎年、海外の第一線で活躍している研究者の方々を一定数招聘しています。これらの研究者たちとの交流は、院生の研究生活を豊かにし、博士論文執筆に役立つ新鮮な着想にもつながります。また、総合研究大学院大学のほかの基盤研究機関を母体とするコースのなかで、国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館・国立国語研究所・総合地球環境学研究所などは分野的に親和性が高く、授業科目履修を通じ他コースの学生との交流の機会もあります。

こうした国際的かつ学際的な研究環境の中で、将来的に国内外の学界で活躍していける研究者を育てていくことが本コースの使命です。グローバルな視点に立った独創的な研究を志す方を歓迎します。

コースの概要

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究(Japanese Studies)をすすめるため、全教員が参加し多角的な教育・研究指導を行います。

授業科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「先端学術院特別研究」などを置き、国際的な観点から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の分野を横断する総合性を備えた研究者の育成を目指しています。

設置の目的

国際日本研究コースは、国際日本文化研究センターがもつ多様な研究者と優れた研究環境をもとに、国際的・学際的な視野で日本の文化と文明について教育研究を行い、高度で視野の広い国際性豊かな研究者育成を目的としています。

● 令和8(2026)年度開講科目

教育・研究指導分野	授業科目	概 要	担当教員
選択科目	日本研究基礎論	各教員の携わっている最新のテーマ及びその目的や方法論を語り、日本研究の最前線の講義と、日本研究の基礎となる理論的・方法的枠組みを明確化する研究を行う。	全教員
	学際研究論	学際的な論文作成の推進のために口頭発表及び質疑応答の練習を行い、博士論文執筆を具体的に促す。	全教員
	シンポジウム等運営実習	本コースの基盤機関である国際日本文化研究センターが企画するシンポジウム、セミナー、共同研究会等の計画運営に参加することにより、その運営方法を体験実習する。	関係教員
必修科目	先端学術院特別研究	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	指導教員及び関係教員

複数教員指導体制

本コースでは、主任指導教員のほか、2名の副主任指導教員の指導を仰ぎます。

また、それ以外のコース教員や外国人研究員に随時相談をすることも可能です。

教員が主催する共同研究への参画、基礎領域研究などでの研練、さらに日文研に集う国内外の日本研究者によるセミナーなどに参加することができます。

こうした刺激に富んだ恵まれた研究環境にあって、学位の取得をめざします。



日本研究基礎論 授業風景

学生支援

調査・研究に必要な移動経費・学会参加費・文献複写経費等の支給のために、大学院生研究プロジェクト経費、海外学生派遣事業経費などが用意されています。

また、論文作成の上で必要な物品及び図書の購入希望も申請できます。



院生研究室

奨学金制度

私費外国人留学生の修学を促進するため、以下のような奨学金制度が整備されています。応募者数が定員を超えた場合は、内部選考を行います。

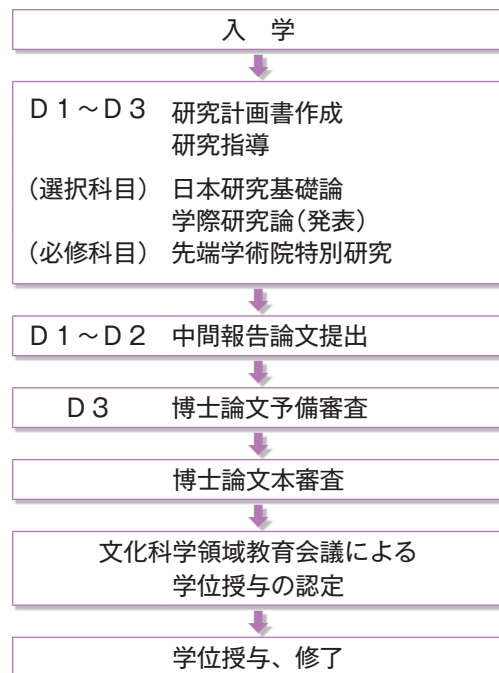
・(一財)国際日本文化研究交流財団奨学金 等

また、日本人学生は、日本学生支援機構奨学金に応募することができます。



国際日本文化研究センター図書館の利用

学位授与、修了までの流れ



在学生からのメッセージ

国際日本研究コースへようこそ

張 景怡

どんな研究をされているんですか——これは、私が総合研究大学院大学（総研大）国際日本研究コースの大学院生として、国際日本文化研究センター（日文化研）に入ってから身につけた挨拶の言葉です。洛西の緑豊かな丘陵に位置するこの研究の場では、国際的・学際的な共同研究会やワークショップがほぼ毎週開催されています。世界各地から集まった研究者や大学院生が行き交い、ここでは高密度な情報とアクティブな思考が直接ぶつかり合っています。

多様性が高度に集中する空間に身を置くことは、本コースにおける最大の挑戦にもなると、日々実感しています。それぞれの研究分野の垂直な軌道を深く掘り下げながら、「国際日本研究」という異なる軌道の交差点で、新たな問題意識を切り拓くという、一見相反する実践を求められるからです。AI が既存の枠組みに沿って文献を容易に分析できる現代だからこそ、独自の切り口やアプローチで対象に向き合い、分野の境界で新たな問いを生み出すことに、本コースで学ぶ意味が隠されているように思えてなりません。

こうした挑戦を強力にバックアップすべく、本コースには手厚い経済的支援が用意されており、先生方や職員の皆様による多大な支援にも恵まれています。大学院生研究プロジェクトや海外学生派遣事業は国内外での学会発表やフィールドワークを全面的に支え、充実した図書購入制度やリサーチ・アシスタント（RA）などの雇用制度、各種助成金への申請サポートにいたるまで、すべてが研究のための堅実な支援体制が整っています。

中心街から離れた静かな自然のなか、緊密な学術ネットワークが張り巡らされたこの場所は、良くも悪くも「研究しかできない」環境です。隣にいる人のバックグラウンドや専門分野は全く異なり、ともしれば他者との違いに安心し、自分の世界に閉じこもってしまいがちです。ですが、限られた時間のなかで専門を深く掘り下げる博士後期課程において、専門外の他者との対話は重要な意味を持ちます。同領域の枠内だけでは見えなかった自身の立ち位置を知り、自らの研究が何を説明でき、何が説明できないのかという学問的な境界線を明確に引くことができるからです。そうやって他者との対話のなかに自らを置きながら、自身の研究の射程を見極め、なおも独自の視点を見出していくことこそが、日文化研という場で学問を研ぎ澄ます、醍醐味なのです。

担当教員の紹介

(令和8年7月1日現在)

①専門分野
②現在の研究テーマ

戦 暁 梅 教授 (コース長)

- ①近代日中美術交渉史
- ②文化史の視点から近代日中美術の形成、変遷において、西洋の影響と異なる内的要因の究明を目指しています。日中共通の絵画ジャンルである文人画を含めた伝統画壇の共通する運命や相互関係、また日本人美術家の旧満洲体験を追跡し、考察しています。



磯 田 道 史 教授

- ①日本史学
- ②近世中後期の幕藩政改革を研究しています。さらに東日本震災後は、歴史地震津波の史料を調べ読解し防災に役立てる試みをはじめました。また最近では、自治体と連携し、伊賀・甲賀など忍び(忍者)の古文書を調査しています。



伊 東 貴 之 教授 (副コース長)

- ①中国思想史、東アジア比較文化交渉史
- ②中国における哲学・思想の歴史について、広く日本や韓国・朝鮮などを含む東アジア文化圏の中に位置づけて、研究しております。また、場合によっては欧米を含む、よりグローバルな視座で、比較や交流の視点も加味して、考察しています。



榎 本 渉 教授

- ①中世国際交流史
- ②私の研究テーマは、9世紀から14世紀の日本と海外との交流です。この時代の日本は外交に関心が低かった一方で、民間主導の交流は前後の時代よりも盛んでした。その具体相を主に貿易商人と渡航僧に着目して研究しています。



楠 綾 子 教授

- ①日本政治外交史、安全保障論
- ②アジア太平洋戦争以後の日本の外交・安全保障政策は、占領から講和にかけての時期に形成されました。それが長期にわたって基本的に維持されたのはなぜなのか。19世紀以来の国際関係史の文脈と冷戦期の国際政治、国内環境の文脈の交錯が生み出したものはなにかを考えています。



フレデリック・クレインス 教授

- ①戦国文化史、日欧交渉史
- ②徳川家康、細川ガラシャ、三浦按針の人物像を中心に戦国末期の研究を行っています。最近は足利將軍家についても調べています。また、平戸オランダ商館文書の調査研究を通じて、初期の日欧交渉史の解明にも努めています。



タイモン・スクリーチ 教授

- ①江戸時代の歴史
- ②1. 江戸時代の視覚文化や美術史。解剖学史と身体論、春画。2. 「鎖国」論の考え直しと国際交流。3. 江戸初期の武士神格化(豊国大明神、東照大権現)。全国東照宮のネットワーク。4. 近世の琉球王国の交流史。八重山列島の文化史。



関 野 樹 教授

- ①情報学
- ②時間に基づいて情報の可視化や解析を行うための研究開発をしています。これらの成果は、「HuTime」などのソフトウェアやWebアプリケーション、和暦などの日付を扱うための基盤データとして、一般に公開しています。



瀧 井 一 博 教授

- ①国制史、比較法史
- ②明治立憲体制の成立と展開を知識社会史と国際関係史の観点から考察しています。日本の憲法史を一国の固有な現象ではなく、ウチとソトの視角から捉え直し、国際的に通用するような研究をしたいと考えています。



松 田 利 彦 教授

- ①日朝・日韓関係史
- ②日本統治期朝鮮における医療衛生政策を研究しています。赤痢菌発見者の細菌学者・志賀潔あるいは日文研が個人文書を所蔵している軍医・佐藤恒丸らの朝鮮での足取りを追うことで、日本人医学者の研究と朝鮮統治政策の関係を考えています。



安 井 眞 奈 美 教授

- ①文化人類学、日本民俗学
- ②出産に関する習俗・人間関係・医療の変遷などを解明するため、日本とミクロネシアでフィールドワークを続けています。また人々が、身体のイメージをどのように想像し、図像化してきたのか、民間信仰や医学、美術などが重なり合った分野から明らかにしたいと、研究を進めています。



山 田 奨 治 教授

- ①情報学、文化交流史
- ②著作権制度の変化とそれが文化に与える影響、日本の禅やポピュラー・カルチャーなどが海外に伝播したときに起きた変容とそれに対する日本側の応答、デジタル・ヒューマニティーズに関することなどを研究しています。



劉 建輝 教授

① 日中文化交渉史

② 近代東アジアについて、従来の一国史観を乗り越え、西洋近代とともに受容する一文化共同体として捉え直し、日中をはじめとする当地域全体の文化的相互影響、相互干渉を追跡しています。



太田 奈名子 准教授

① メディア史

② 戦後日本のラジオ放送、近現代日本のメディアと言語、デジタルアーカイブの教育活用といったテーマを中心に、学術知の社会還元を念頭に置き、日々研究に励んでいます。



片岡 真伊 准教授

① 日本近現代文学、比較文学

② 日本近現代文学の英訳・編集・出版過程、および受容・伝播に関する研究を行っています。なかでも、第二次世界大戦後に英語圏で紹介された場合に焦点をあて、翻訳対象となる文学作品の航跡と変容の内実を考察し、国際的な視野から眼差しに浮き彫りとなる日本近現代文学の実像と可能性について考えています。



中丸 貴史 准教授

① 日本古典文学

② 古代・中世の日本のテキストを世界に位置づけること、それを社会にひらいていくことを目的としています。キーとなるのは漢文です。日本人の書いた漢文テキストを中心に(最近は藤原忠実の『殿暦』を読んでいます)、『源氏物語』や『栄花物語』、『土左日記』、『讃岐典侍日記』などについて考えています。



エドワード・ボイル 准教授

① 境界研究、文化遺産論、島嶼研究

② 近世・近代・現代における境界及び国境の変容や変遷過程に関する研究に従事しています。空間が文化・歴史遺産化される過程について「記憶の境界」という概念を用いて分析を行っています。日本国内に限らず、東北アジア地域や、北東インド、太平洋地域に関する研究も進めています。



劉 建輝教授とタイムン・スクリーチ教授は、2027年3月退任予定です。
伊東 貴之教授と山田 奨治教授は、2028年3月退任予定です。

※姓の五十音順

● 国際日本研究コースの学位

国際日本研究コースを修了した者には、博士の学位(学術)が授与されます。

● 年度別学位授与者数

年度	(平成)6~16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	(令和)元	(令和)2	(令和)3	(令和)4	(令和)5	(令和)6	(令和)7	計
課程博士	29	0	0	3	1	3	1	2	3	2	3	2	1	4	3	2	3	4	1	4	0	1	72
論文博士	11	1	1	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	3	1	1	1	0	0	1	0	0	29
計	40	1	1	3	1	3	1	3	6	6	4	2	1	7	4	3	4	4	1	5	0	1	101

● 博士学位授与者

課程博士

(入学年度順)

入学年度	氏 名	論文題目	学位授与日
平成12年度	永松 敦	日本における狩猟民俗の生成と変遷に関する歴史民俗学的研究	平成15年3月24日
	伊東 章子	科学・技術をめぐる言説の歴史的展開とナショナル・アイデンティティの変容—両大戦間期以降を概観して	平成15年9月30日
	ウリケル・ババドゥルボアチ	Napoleon wars and International System: with special reference to the Ottoman Empire and Japan	平成17年3月24日
平成13年度	那須 浩郎	The origin and dispersal of agriculture in China and Japan —Archaeobotanical study of Chengtoushan site, Hunan, China	平成16年3月24日
	岩井 茂樹	歌道と茶道における恋歌の諸問題—その歴史的展開と社会的背景について	平成16年9月30日
	中谷 正和	物質文化からみた先史東アジアの調理技術—農耕社会成立期における中国大陸沿岸部と日本列島の事例を中心として	平成17年3月24日
	武藤 秀太郎	近代日本の社会科学と東アジア	平成20年3月19日
平成15年度	李 偉	大名庭園の空間構成に関する研究—江戸時代の庭園における「眺望」—	平成20年3月19日
	堀 まどか	野口米次郎—「二重国籍」詩人の生涯と作品世界	平成21年9月30日
	戸矢 理衣奈	「東京銀座資生堂」：福原信三と企業イメージの構築	平成22年9月30日
平成16年度	酒井 順一郎	清国人日本留学生に於ける教育文化交流—宏文学院を中心に—	平成20年3月19日
	澤田 晴美	近代日本文化における伝統演劇と近松門左衛門—アカデミズム・劇評・役者の身体	平成21年3月24日
平成17年度	中野 洋平	信濃巫女の研究—近世日本における民間宗教者の存在形態とその形成	平成22年3月24日
	横山 輝樹	江戸幕府武芸奨励策の研究—画期としての徳川吉宗—	平成25年3月22日
平成18年度	梅 定娥	「満洲国」文化人古丁の思想的変遷をさぐる—翻訳、創作、出版	平成22年3月24日
	小山 周子	大正新版画の研究—版元を中心とした美術の成立、構造と展開	平成26年3月20日
平成19年度	長門 洋平	溝口健二映画にみる音響と映像の美学—物語構造の視聴覚的分析	平成24年3月23日
	鈴木 堅弘	近世春画・春本の図像研究—その背景表現への考察—	平成24年9月28日
平成20年度	陳 凌虹	中国近代演劇の成立と日本—文明戯と新派を中心に	平成24年3月23日
	徳永 誓子	「融通念仏縁起」の研究—物語絵にみる日本中世の信仰世界—	平成25年3月22日
	岡本 貴久子	「記念植樹」と近代日本—林学者本多静六の思想と事績を手掛かりに—	平成26年3月20日
平成22年度	漆崎 まり	江戸長唄の基礎的研究	平成26年9月29日
	韓 玲玲	満洲における北村謙次郎の文学活動	平成27年3月24日
平成23年度	アントン・ルイス・カビストラノ・セビリア	Exporting the Ethics of Emptiness: Applications, Limitations, and Possibilities of Watsuji Tetsuro's Ethical System	平成27年3月24日
平成24年度	簡 中昊	近代日本の台湾原住民認識—作家たちが見た「野蛮人」—	平成28年3月24日
	栄 元	租借地大連における日本語新聞の事業活動—満洲日日新聞を中心に—	平成29年3月24日
	西田 彰一	国体論者としての寛克彦—その思想と活動—	平成29年9月28日
平成25年度	光平 有希	江戸期・明治期日本音楽療法思想—養生論及び西洋医学理論の受容史を中心に—	平成28年3月24日
	宇佐美 智之	集落動態にみる北部九州弥生社会の生成と展開	平成30年3月23日
	小泉 友則	日本における「子どもの性」に関する認識・情報の変遷—近世後期から明治後期にかけて子どもの性的欲望・現象はいかに語られてきたのか—	平成30年3月23日
	山村 奨	近代日本の陽明学理解の系譜	平成30年3月23日
平成26年度	坂 知尋	地獄の鬼婆から浄土の導き手へ：文学、図像、儀式、信仰実践における奪衣婆の表象についての考察	平成31年3月22日
	Gouranga Charan PRADHAN	19世紀末・20世紀初頭の英米における『方丈記』の受容—夏目漱石の「英訳方丈記」を中心に—	平成31年3月22日
	君島 彩子	平和祈念信仰における観音像の研究	平成31年3月22日
	春藤 献一	戦後日本の動物愛護—動物(犬・猫)愛護運動と動物保護管理行政—1947～2000	令和元年9月27日

平成26年度	大石 真澄	映像内要素の構成・配列とその理解実践から見た1970～80年代日本のテレビCM	令和2年9月28日
平成27年度	片岡 真伊	小説とノヴェルのあいだ—戦後期日本小説の英訳・出版現場の探究—	令和元年9月27日
	田村 美由紀	近現代日本文学におけるディスアビリティとジェンダー—身体・性・書くこと—	令和3年3月24日
	増田 斎	遠藤周作と戦後経験—〈踏絵〉と〈転向〉をめぐる戦中派キリスト教作家の文学実践	令和5年9月28日
平成28年度	宋 琦	江戸時代中後期における神儒仏三教思想—形態と構造の分析を中心に—	令和3年3月24日
	単 荷君	近代青島の都市空間の変容—日本的要素の連続と断絶を中心に—	令和3年9月28日
平成29年度	高 燕文	「満蒙開拓」をめぐる言説空間—大陸開拓文学を中心に—	令和4年3月24日
	龔 婷	都市平安京の様相—八世紀末から十二世紀初頭までの実態を中心に	令和6年3月22日
平成30年度	陳 藝婕	日本で見た西洋：傳抱石が受けた西洋影響に関する研究	令和4年3月24日
	久葉 智代	日本古代における空間認識	令和5年3月24日
	宋 丹丹	身体と心性の視点からみた岩石伝承—通過儀礼を中心に	令和5年9月28日
平成31年度	葉 曉瑤	京都の場から読む川端康成文学—戦中期・戦後期を中心に	令和4年3月24日
	虞 雪健	日本古典文学における中国夢遊物語のアダプテーション	令和6年3月22日
令和2年度	王 紫沁	江戸期の来船清人絵画とその受容：南画の視座から	令和7年9月26日

(平成4年度入学者からの累計) 以上72名

論文博士

(授与日付順)

氏 名	論文題目	学位授与日
王 勇	聖徳太子と中国文化—歴史を動かした慧思後身説	平成8年9月30日
シワニ・ナンディ	Socio-Technological Issues of Technology Transfer: A Specific case study of the Maruti-Suzuki Collaboration	平成9年3月24日
マゾ・L.シュレスト	企業の多国籍化と技術移転—ポスト雁行形態の経営戦略	平成9年3月24日
鈴木 貞美	梶井基次郎研究	平成9年3月24日
伊藤 賢次	東アジアにおける日本企業の経営—経営のグローバル化と「日本的経営」の移転	平成10年3月24日
北川 勝彦	日本—南アフリカ通商関係史研究	平成11年3月24日
胡口 靖夫	近江朝と渡来人—百濟鬼室氏を中心として	平成11年3月24日
高田 康孝	生活文化と世相の変容に関する研究—20世紀日本における高度経済成長期を中心に	平成11年3月24日
濱口 恵俊	日本研究原論—「関係体」としての日本人と日本社会	平成11年9月30日
チャオ 壻原 三鈴	Japan Literacy in Australia—A Changing Demand over Eighty Years	平成13年9月28日
北川 淳子	The Nature and Development of Chestnut (<i>Castanea crenata</i>) and Horse Chestnut (<i>Aesculus turbinata</i>) Culture in Japan	平成16年9月30日
岡村 敬二	日満文化協会の歴史—創設から解散まで	平成18年3月24日
香川 雅信	日本人の妖怪観の変遷に関する研究—近世後期の「妖怪娯楽」を中心に	平成18年9月29日
山口 欧志	古代社会の景観考古学的研究—遺跡のデジタルドキュメンテーションと景観分析—	平成23年9月30日
姜 鶯燕	徳川幕臣の身分的変容に関する研究—いわゆる「御家人株の売買」の問題を中心に—	平成24年9月28日
柴田 依子	ポール＝ルイ・クーシュと日本—その生涯とフランスにおける俳句受容	平成25年3月22日
野呂田 純一	幕末・明治の美意識と美術政策	平成25年3月22日
青野 正明	朝鮮総督府の神社政策と国家神道の論理—1930年代を中心に—	平成26年3月20日
根川 幸男	戦前・戦中期ブラジルにおける日系移民子弟教育の史的研究	平成26年3月20日
金 炳辰	革命的サンディカリスト大杉栄 —「生の創造」に基づいた革命展望—	平成26年3月20日
コルネーエヴァ・スヴェトラナ	江戸時代前期の喧嘩口論事件の処理に関する歴史社会学的考察—盛岡藩と加賀藩の事例を中心に—	平成26年3月20日
石川 肇	舟橋聖一論 —「抵抗の文学」を問い直す	平成27年3月24日
門脇 朋裕	近世前期における幕府全国法令の伝達・施行に関する研究	平成29年9月28日
長尾 洋子	〈うたの町〉をめぐる近代の空間誌—おわら風の盆の半世紀に耳を澄ます	平成30年3月23日
マシュー・ラーキング	The Pan Real Art Association as an Early Postwar Avant-Garde of Nihonga	平成30年3月23日
石川 巧	戦中・戦後の稀覯雑誌と出版文化に関する研究	平成30年9月28日
松宮 貴之	近現代中国の「経世致用」思想と書法への展開—郭沫若を中心として	令和2年3月24日
篠崎 敦史	平安時代の国際関係と外交の研究—古代から中世移行期における東アジアとの交流の歴史的意義—	令和3年3月24日
山本 忠宏	カメラを持ったまんが—「映画的」なまんが表現における「分析・実験・教育」の方法論的実践—	令和6年3月22日

以上29名

入学者状況と修了者の進路

● 入学者状況

令和6～8年度(4月入学)入学者選抜実施状況

年 度	入学定員	志願者	合格者	入学者	性別		外国人	有職者
					男	女		
令和8	3名程度	7	2	2	0	2	0	1
令和7	3名程度	4	1	1	1	0	0	1
令和6	3名程度	4	1	1	0	1	0	1

※令和4年度までは、国際日本研究専攻

● 国別在学生

(令和8年5月1日現在)

	日 本	中 国	合 計
1年次	2	0	2
2年次	1	0	1
3年次	3	6	9
合 計	6	6	12

● 修了者の進路

東京大学・大阪大学・九州大学・岡山大学・長崎大学・大阪公立大学・奈良県立大学・
島根県立大学・立教大学・京都精華大学・帝京大学・上海大学・雲南大学・曲阜師範大学・
日本学術振興会・長崎県教育委員会・国際日本文化研究センター 等

修了生からの メッセージ

王 紫沁 (2025年9月学位取得)

入学前、知り合いの先輩に日教研の雰囲気を尋ねたところ、学生一人ひとりの研究分野がそれぞれ異なっているのだと聞きました。これまでずっと美術大学に籍を置き、総合大学での学習経験すらなかった私には、それがどのような環境なのか想像もつきませんでした。しかし振り返れば、ここでの日々はとても楽しかったと、心から言うことができます。京都西山の豊かな緑に囲まれた閑静な環境のなか、少人数ながらも研究室間の隔たりはなく、多国籍の学友との交流は専門の壁を越えて、多くの刺激を与えてくれました。

学べてよかったと感じる点は数多くあります。まず、さまざまな専門領域の先生方からご指導をいただけること。自分では思い及ばない新鮮な視点に触れ、自らの研究を見つめ直すと同時に、学際的な探究を深めるうえでも貴重な環境でした。次に、研究への支援が手厚いこと。図書館の豊富な蔵書やデータベースはもちろん、資料の調査や取り寄せにも行き届いた支援があり、大学院生研究プロジェクトなどの制度のおかげで、学会発表や資料調査のために日本各地、ひいては世界各地へ足を延ばすことができました。さらに、世界各地の研究者と交流できること。年間を通じて世界中から研究者が集う日教研では、日本にいながら国際色豊かな環境に身を置き、最先端の知見に触れることができました。そして、RAとして多様な業務を経験できること。データベースの作成、共同研究会や国際シンポジウムの運営補助、一般公開でのパネル発表など、机に向かう研究にとどまらず、成果の公開から社会への還元まで、幅広い経験を積み重ねました。

国際性と学際性に満ちたこの環境で過ごした時間は、研究者としての私の土台を確かに育ててくれました。末筆ながら、温かくご指導くださった先生方、そして支えてくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。



※詳しくは本年度の「学生募集要項」をご覧ください。

● 入学定員

コース	募集人員	基盤機関
国際日本研究	3 名程度	国際日本文化研究センター

● 出願資格

修士の学位を有する者又は令和9(2027)年3月までに取得する見込みがある者のほか、本学において修士に相当する学力があると認めた者。

● 選抜の方法

選抜は、第一次選抜(書類選考、修士論文等の審査)、及び第二次選抜(面接)により行います。
※第一次選抜合格者に対して、第二次選抜期日及び時間を通知します。

● 出願期間

令和8(2026)年12月3日(木)から 令和8(2026)年12月9日(水)

● 第二次選抜(面接)及び実施場所

【試験日】 令和9(2027)年1月25日(月) 【予備日：令和9(2027)年1月26日(火)】

第二次選抜は、第一次選抜合格者についてのみ行います。

【場 所】 国際日本文化研究センターにて、対面にて実施します。(必要であればオンラインで実施)

● 募集要項請求

日本国内から郵送にて請求する場合

請求者の住所、氏名、郵便番号を明記し、510円の切手を貼付した返信用封筒(角形2号・縦33.2cm 横24cm)を下記宛に送付してください。

国際日本文化研究センター 研究協力課 研究支援係

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地 電話：075-335-2052

電子メールにて請求する場合

下記メールアドレスに、以下の必要事項を記入し、送信してください。

総合研究大学院大学 学務課 学生係

電子メールアドレス：gakusei@ml.soken.ac.jp

(受信確認のメールを送付するため、携帯電話のメールアドレスは使用しないでください。)

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤希望する募集要項

※なお、受信確認のメールは、原則5業務日以内に送付します。

受信確認のメールがない場合は、お手数ですが、再度、必要事項を送信してください。

アドミッション・ポリシー

● 求める学生像

国際日本研究コースでは、日本研究を広い視野に立つて行う学際的研究に強い関心と意欲を有し、本コースの複数の教員から提示された方法論や提供された様々な知見を駆使しながら、一人一人自ら主体的・批判的に総合して独創的な日本研究を成し遂げ、自立した研究者として将来にわたって研究活動を発展させ、日本研究の国際化に貢献できる学生を、国籍や文化背景を問わず、広く求めています。博士後期課程(修士課程修了者を対象とする)への入学が可能です。

● 入学者の選抜について

国際日本研究コースでは、出願書類及び面接により、提出された修士・学術論文等の論文形式、独創性・発展性、論理性・実証性や、志望研究内容の独創性・計画性・将来性、及び出願者のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、将来性の各項目を評価し、自立的に研究を推進することのできる基礎学力と論理的な思考力を総合的に判定します。

Q1. 授業料免除制度はありますか？

A. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる方に対し、授業料を免除する制度があります。毎年、前期・後期各1回ずつ申請の機会があり、一定の審査を経て決定されます。

Q2. リサーチ・アシスタント(RA)制度はありますか？

A. 国際日本研究コースに在籍する大学院生の中から、研究又は教育に係る補助業務を行う者を、RAとして雇用し、コース内において自身の研究を有益に遂行できる体制を作っており、その労働の対価として給与を支給し、経済的支援を行っています。

Q3. 学生が指導を受ける場所は、葉山ですか？京都ですか？

A. 京都です。本コースの基盤機関である国際日本文化研究センターが、研究指導や論文執筆の拠点となります。なお入学式や学位記授与式など全学的な行事は、大学本部である葉山キャンパスで実施されます。

Q4. 出願前に、希望指導教員を決めておく必要がありますか？

A. 希望指導教員を決めたうえで、出願前に指導を希望する教員と教育指導領域・内容について面談・メール等により相談してください。なお基本的に事務担当者から教員紹介はしませんので、本コース概要及びコースホームページ内の教員紹介をご覧ください。

Q5. 遠方在住でも学位取得は可能ですか？

A. 現在も、遠方在住のまま、学位取得を目指している学生は多数います。ただし、授業開講日には必ず登校する必要があります。

Q6. 10月入学はできますか？

A. 10月入学を設けておりません。

Q7. 他コースとの併願は可能ですか？

A. できません。

Q8. 日本学術振興会特別研究員(DC1、2)採用者はいますか？

A. 令和7(2025)年度、DC2採用者1名(令和6(2024)年度採用)。



入学式（総研大 葉山キャンパス）



学際研究論 授業風景

日文研の研究活動について

国際日本文化研究センター（日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として、昭和62年5月21日、文部省大学共同利用機関として設置されました。平成16年4月からは大学共同利用機関法人・人間文化研究機構を構成する研究所となりました。

日文研の活動は、研究活動（個人研究・基礎研究・共同研究）、研究協力活動、普及活動の3つの柱から成り立っています。これらの中から、特に本コース在學生に関わりの深い活動についてご紹介します。

● 共同研究

日本文化を研究するためには、関係する個別専門分野ごとの成果が着実に積み重ねられなければなりません。併せて専門分野の枠組みを越えて、研究者が相互に知見を高めあう場が必要になります。こうした共同研究の場は、総体として日本文化理解の促進に大きな役割を果たすものと考えています。

また、日文研の共同研究では、日本と異なる知的伝統にたつ海外の研究者との交流をも重視しています。さらに、国際化の時代を迎えた今日、日本文化研究もまた国際化を図ることで時代の要請に応えることができるものと考えます。

このように、日文研の共同研究は、単なる研究成果の交換にとどまるものではなく、専門分野及び知的伝統を異にする研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる創造性こそをめざしているのです。

◆令和8（2026）年度の共同研究は、次の19課題です。

（令和8（2026）年5月1日現在）

ユニット	研究課題	研究代表者
自然観と人間観	町とモニュメントー視覚文化史から見た日本の都市計画と記念ー	タイモン・スクリーチ
	「島国・日本」再考ー移り変わる姿、意識、心象ー	エドワード・ボイル
	「身心（身体知）」と「自然（環境系）」の相関ー東アジアから考える／発信するオルターナティブー	伊東 貴之
	植民地帝国日本における生・病・死	松田 利彦
	動物愛護運動の研究ー動物を助ける多様な方法ー	バーバラ・ホルツ 中丸 貴史
文化と権力	「戦後」と「近代」を超えてー1970年代日本の国家と社会ー	楠 綾子
	文化コモンズの生成と変容	山田 奨治
	「知」を編むということー集輯・編訳・表象にまつわる共創的探究ー	片岡 真伊
	国家形成のなかの知ー比較国制史からの日本論ー	瀧井 一博
	日本漢文学の基盤構築	中丸 貴史
	ナショナリズムの行方ー右傾化、宗教化、ポピュリズムー	ケネス・ジェームズ・オルフ
	東アジア論の再生ー戦後思想から地域実践へー	片岡 耕平 呉座 勇一
	支払行為から読みとく文化と権力の交錯ー貨幣なき交換、制度なき秩序ー	河野 憲嗣 安井 真奈美
	中国の統計・年鑑・地方誌等（日中文庫）を活用した中国現代史研究の可能性	川島 真 劉 建輝
大衆文化研究の展開	異文化媒介者たちの比較史	榎本 渉
	近代日本における「文人文化」の変容	戦 暁梅
	近代東アジア文化史の再構築Ⅱー20世紀の百年間を中心にー	劉 建輝
	海を渡る声ーラジオから聴こえる国際日本文化研究ー	太田 奈名子
	西国三十三所巡礼の歴史的変遷と現代的変容	金 容儀

● 基礎領域研究

このとりくみでは、専任教員が自発的に基礎的な課題を設定し、分野の異なる研究者たちとその能力を共有することがめざされます。一種のゼミナールですが、おのずと超領域的な討議をひきおこし、研究上の新しい課題を浮上させることもあり、その意味で、基礎領域研究とよばれています。

◆令和8年度は、以下の4の基礎領域研究を開催しています。

研究課題	担当教員	研究課題	担当教員
韓国語の運用(応用)	松田 利彦	中国古典学の基礎	伊東 貴之
近現代史史料文献研究	瀧井 一博	日本政治外交史文献・史料講読	楠 綾子

● 研究会・イベント

国内外の研究者との交流のために、以下のような場を設けています。大学院生、留学生の参加も奨励しています。このほかにもレクチャーやシンポジウム等を開催しています。

● 日文研フォーラム

日文研に滞在中の外国人研究者による日本研究の成果を紹介し、交流の一助となることを主な目的とする催しです。1987年の設立以来、京都市中心部の会場で開催しています。

● 日文研木曜セミナー

研究者の交流を目的に、主に日文研教員が最新の学術テーマを掲げて研究発表する企画です。

● Nichibunken Evening Seminar

研究のため日文研に滞在中の外国人研究者が、英語で研究成果を発表する企画です。

● 国際シンポジウム等

日本の文化、社会に対する世界各国の関心の高まりにともない、研究者の問題意識、研究方法も著しく多様化してきています。このような状況に対応するため、主として日文研での共同研究をテーマに、国際シンポジウムを実施し、日本研究発展のための国際的な討論の場を設けています。

このほか、日文研では、海外においても研究活動・研究協力活動を行うため、海外シンポジウム・海外研究交流シンポジウム・海外における日本研究会等を展開しています。

本コースの在学学生は、これらの国際シンポジウム等への参加に、各種の便宜がはかられています。



国際シンポジウム



国際シンポジウムでの大学院生の発表

● 図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し(資料約60万点)、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。

図書資料館、第二図書資料館、および平成26年に新設された第三図書資料館には合わせて約70万冊が収容可能な固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、グループ研究室、マイクロ資料室等が配置されています。

資料の収集方針

1. 外国語で書かれた日本研究図書および訳書の網羅的収集

日文研では標記資料を「外書」と呼び、その網羅的収集に努めており、図書館蔵書の特色のひとつとして内外から高い評価を得ています。

2. 日本研究に必要な基本図書・雑誌の収集

国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています。

3. 日本研究に関する文献目録、索引等の網羅的収集

日本研究を進めるうえで必要な文献を探すツールとして、各種文献目録や索引等を網羅的に収集しています。

4. 視聴覚資料

妖怪、浮世絵、春画、古地図、DVD・CDなどの映像音響資料を積極的に収集しています。

資料の利用

日文研に所属する研究者・学生等は、日文研が所蔵する資料を、貴重書等の例外を除いて自由に利用できます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。日文研が所蔵する資料は、インターネットを通じて外部からも検索でき、NACSIS-I/LL(図書館間相互利用制度)にもとづいて日文研以外の機関から文献複写や現物貸借を申し込むこともできます。

職員によるサービスは、平日午前9時から午後5時までです。ただし、日文研に所属する研究者・学生等は、平日は午後9時まで、平日以外でも午前9時から午後9時まで利用できます。

● 日文研のデータベース一覧

井上哲次郎宛書簡

艶本資料

怪異・妖怪画像

怪異・妖怪伝承

外像

古写真

古事類苑ページ検索システム

在外日本美術

所蔵地図

西洋医学史古典文献(野間文庫)

撰関期古記録

宗田文庫図版資料

日文研デジタルアーカイブ

日本関係欧文貴重書

日本関係欧文図書目録

俳諧

平安京都名所図会

平安人物志

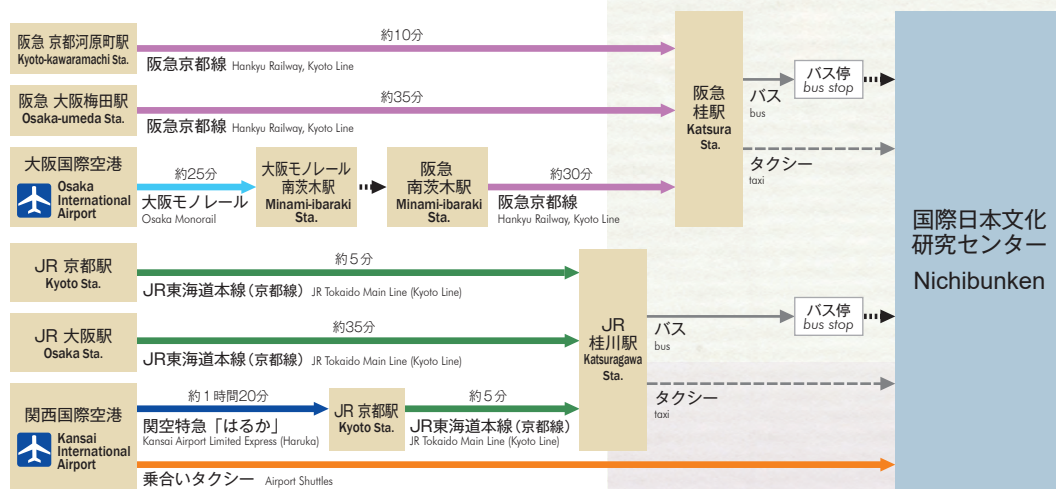
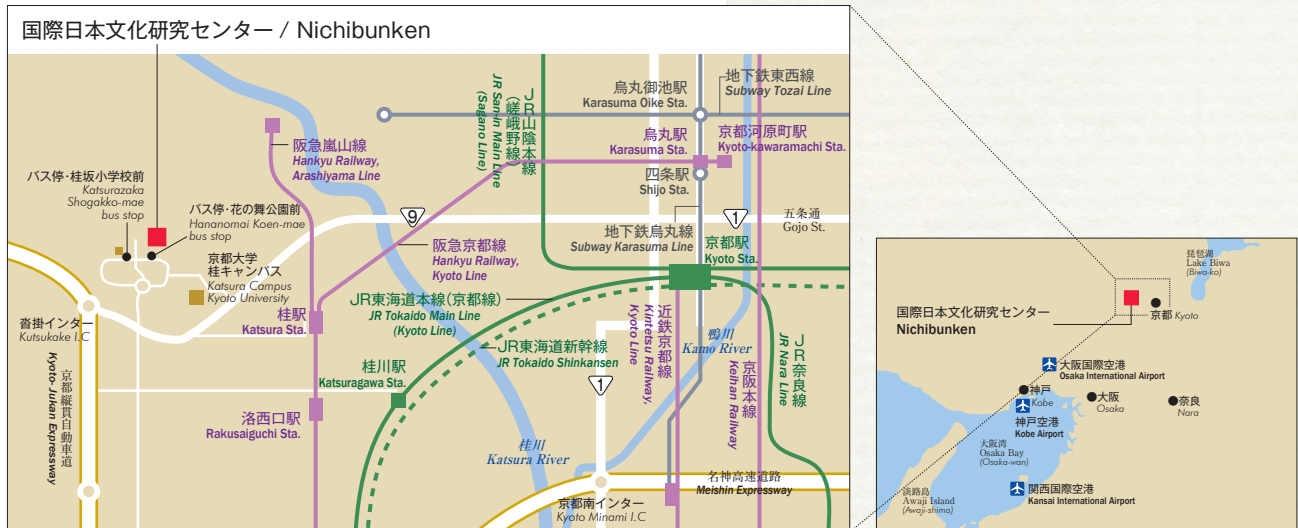
都年中行事画帖

連歌

和歌

他

<https://www.nichibun.ac.jp/ja/db/>



関西国際空港から

- ・乗合いタクシー（要予約）で約150分

JR京都駅（烏丸中央口）から

- ・京阪京都交通バス「21」「21A」「26」「26B」で約45分
- ・タクシーで約40分

JR桂川駅から

- ・ヤサカバス「1」「6」で約30分
- ・タクシーで約20分

阪急桂駅（西口）から

- ・京都市バス「西5」「西6」で約30分
- ・京阪京都交通バス「20」「20B」で約20分
- ・タクシーで約15分

※バスはいずれも「桂坂中央」行き、「花の舞公園前」又は「桂坂小学校前」下車で徒歩約5分

SOKENDAI

総合研究大学院大学

〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
TEL 046-858-1500（代表）
<https://www.soken.ac.jp/>



国際日本文化研究センター

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
TEL 075-335-2052 / E-mail senkou@nichibun.ac.jp（大学院担当）
<https://www.nichibun.ac.jp/ja/>

